●育むのは家庭

子どもにとって家庭は、日常生活の多くの時間を過ごすところです。子どもが成長するうえで「心の居場所」でもある家庭。その役割としては、心身を健やかに育むこと、生活体験を通して生活習慣や善悪の判断、社会的マナーなどを身につけさせることが大切です。

60・15キャンペーン

平成18年度に実施した「子どもの生活実態調査」では、1日3時間以上テレビを見る子どもの割合が、津山市では小学生39・1％、中学生41・0％と、全国平均を大きく上回っていました。このことが睡眠時間、家庭学習の時間にも影響していると思われます。

十分な睡眠時間をとることはとても大切なことです。朝すっきり目覚めて毎日きちんと朝ごはんを食べることは、脳に栄養を送るだけでなく、精神的な安定につながることが分かっています。規則正しい生活を送ることは、安定した学校生活を送るためにも欠かせないことなのです。

そこで、朝すっきり目覚めて朝ごはんを食べるため、60分早く寝て、15分早く起きる「60・15キャンペーン」を展開しています。

皆さんの家庭ではいかがですか?

家庭を始めとして、社会全体で子どもたちを育んでいくために、次のようなことを心掛けてください。

□学校での出来事について子どもと話をしている
□「おはよう」「ただいま」「おやすみ」などのあいさつをしている
□早寝早起きを心掛けている
□子どもは毎日朝食を食べている
□子どもが手伝う家事の分担を決めている
□テレビやゲームの時間にルールを決めている
□家で読書や勉強する時間をとっている
□子どもと一緒に地域の活動に参加している

●支える地域、ボランティア

地域は子どもたちの日常生活の場であり、豊かな人間関係が育つ場でもあります。また、子どもたちにふるさとの良さを実感させることは地域社会の果たす大きな役割です。

このような地域の力を存分に活用し、子どもたちが安心して活動できる安全な地域づくりを進めること、子どもたちにさまざまな体験の場を提供すること、学校支援ボランティアを充実することなどが求められています。

学校支援ボランティア

学校支援ボランティアとは、地域に住む人の教育力をボランティア活動の中で生かしてもらい、学校におけるさまざまな教育活動の展開を支援していくものです。

花壇作り、草刈りなどの環境整備支援、教科指導の補助（家庭科、習字、読書指導など）や校外学習などの教育活動支援、給食の配膳など、学校のさまざまな場面で支援をお願いしています。

▲家庭科の授業での支援（加茂小学校）

広がるボランティア

津山市では今後、放課後学習支援として、地域ボランティアや退職した元教員の協力を得て、放課後の時間を活用した学習支援を行い「繰り返し学習」を可能にしていきたいと考えています。

教育方法の専門家、社会教育・家庭教育の専門家、市政アドバイザー、民間企業、保護者の代表などで構成される「津山市学力向上構想懇談会」。今年5月から、津山市の現状を踏まえながらさまざまな視点から意見を出し合い、子どもたちの健やかな成長のため、教育のあり方について話し合っています。

求められるのは学力の「結果」だけではありません。「なぜ学ぶのか」の答え探しを、子どもたちのこれからの生き方や職業観、そして夢や希望、目標へとつなげていくことが必要です。皆で協力し合い、津山の子どもたちの明日を大きく育てていきましょう。

問い合わせ先 学校教育課☎32-2116

子どもたちから元気をもらっています

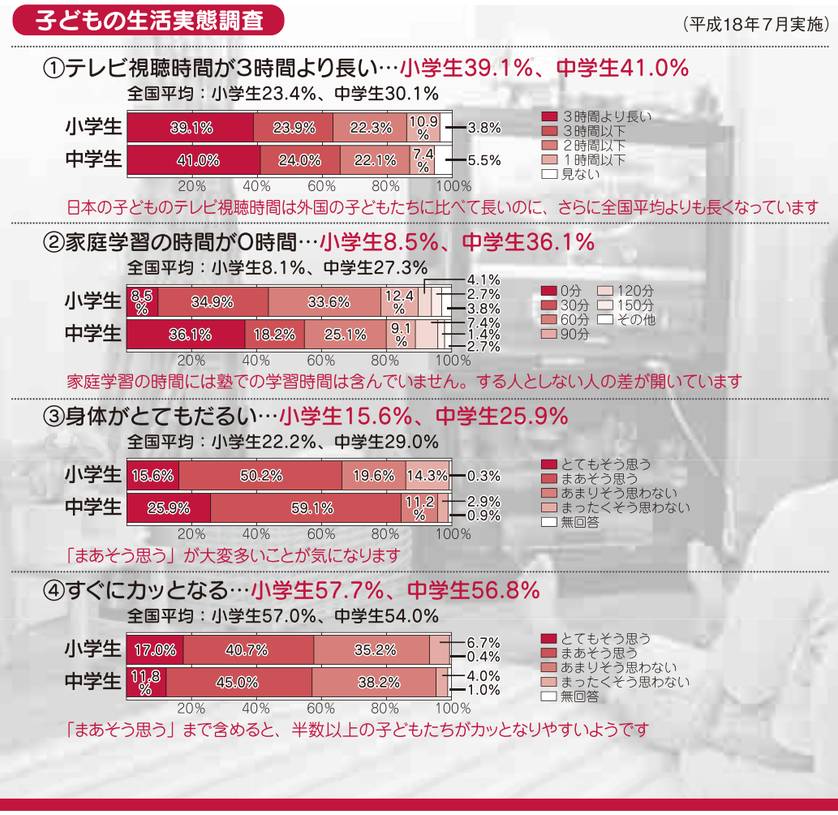
加茂小学校
学校支援ボランティア

右：**大塚節子**さん（小中原）
左：**高橋恵美子**さん（桑原）

10人の学校支援ボランティアが、校外学習の付き添いと1年生の給食配膳、掃除、読み聞かせ、2年生の九九と読み聞かせ、3年生の習字、4年生の音読、5・6年生の家庭科と、全学年を支援しています。学校から依頼があった事を『無理をしないで できる事を できる時に』をモットーに、先生の指導のお手伝いをしています。

かかわる人が多くなれば、子どもたち一人ひとりに目が行き届き、細かく配慮することができます。また、学校に外部の者が入ると緊張感も生まれます。それが良い相乗効果となればいいなと思っています。そのため、わたしたちボランティアも月1回の意見交換を行い、ボランティアのあり方や技術の向上について確認し合っています。

学校に行く日は朝からウキウキして、帰る時には子どもたちから元気をもらいます。子どもたちから「ありがとう」、先生から「助かりました」と言われると本当にうれしい。これがわたしたちの活動の原動力ですね。

子どもの生活実態調査

（平成18年7月実施）